

佐賀県研究成果情報（作成 2021年3月）

[情報名] 上場地域ネギアザミウマの各種タマネギ殺虫剤に対する感受性

[要約] 上場地域のタマネギから採集したネギアザミウマはエルサン乳剤、ダイアジノン乳剤、トクチオン乳剤、アグロスリン乳剤、モスピラン SL 液剤、ディアナSC、ファインセーブフロアブル、ピリープ水和剤に対して感受性が高い。

[キーワード] タマネギ、ネギアザミウマ、殺虫剤、感受性検定

[担当] 上場営農センター 研究部 畜産・果樹研究担当

[連絡先] 0955-82-1930 uwabaeinousenta@pref.saga.lg.jp

[分類] 普及

[部会名] 上場営農専門部会

[専門] 病害虫

[背景・ねらい]

ネギアザミウマは主に幼虫がタマネギの葉身抽出部に寄生・加害するため、増殖に好適な条件となる4月から5月の防除が重要である。当地域のネギアザミウマに対して有効な薬剤を明らかにするため薬剤感受性を検討する。

[成果の内容]

1. タマネギから採集したネギアザミウマ成虫は、エルサン乳剤（IRACコード：1B）、ダイアジノン乳剤（1B）、トクチオン乳剤（1B）、アグロスリン乳剤（3A）、モスピラン SL 液剤、ディアナSC（5）、ファインセーブフロアブル（未）、ピリープ水和剤（3A+15）に対して感受性が高い（表1、2）。
2. 上場地域3地点のタマネギから採集したネギアザミウマ成虫は、ダイアジノン乳剤（1B）、アグロスリン乳剤（3A）、ピリープ水和剤（3A+15）、ファインセーブフロアブル（未）に対して感受性が高く、地域間での差は認められない（表3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 2018年、2020年に室内試験でガラス管瓶を用いた虫体浸漬処理および経口摂取処理で得られた結果をもとに殺虫剤感受性を判定した。
2. ネギアザミウマの発生初期に、適切に防除する。
3. 殺虫剤に対する抵抗性発達を防ぐため、防除の際は系統番号（IRACコード）が異なる殺虫剤でローテーション散布を行う。

[具体的なデータ]

表1 ネギアザミウマ成虫のタマネギ殺虫剤感受性(虫体浸漬)

薬剤名	希釈倍数	IRAC	補正死虫率(%)
エルサン乳剤	1,000倍	1B	100
ダイアジノン乳剤	1,000倍	1B	100
トクチオン乳剤	1,000倍	1B	100
アグロスリン乳剤	1,000倍	3A	100
ディアナSC	2,500倍	5	100
ファインセーブFL	2,000倍	未	100
ピリーブ水和剤	1,500倍	3A+15	97.1
モスピランSL液剤	2,000倍	4A	65.6

注1) 場内タマネギから採集したネギアザミウマ成虫5~7頭を供試した。1処理3反復

注2) 各薬剤2mlに浸漬後、恒温室内で飼育した(25°C16L8D)

表2 ネギアザミウマ成虫のタマネギ殺虫剤感受性(経口摂取)

薬剤名	希釈倍数	IRAC	補正死虫率(%)
エルサン乳剤	1,000倍	1B	100
トクチオン乳剤	1,000倍	1B	100
モスピランSL液剤	1,000倍	4A	100
ディアナSC	2,500倍	5	86.3

注1) 場内タマネギから採集したネギアザミウマ成虫5~7頭を供試した。1処理3反復

注2) 各薬剤を10%スクロース液で希釈し、200 μ l給餌して恒温室内で飼育した(25 16L8D)

表3 上場地域3か所で採集したネギアザミウマ成虫の薬剤感受性(虫体浸漬)

薬剤名	希釈倍数	IRAC	補正死虫率(%)					
			唐津市枝去木		唐津市鎮西町		玄海町有浦上	
			2018年	2020年	2018年	2020年	2018年	2020年
ダイアジノン乳剤	1,000倍	1B	100	100	100	100	100	100
アグロスリン乳剤	1,000倍	3A	100	100	100	100	100	100
ピリーブ水和剤	1,500倍	3A+15	100	100	100	100	100	100
ファインセーブFL	2,000倍	未	—	100	—	100	—	100

注1) 場内タマネギから採集したネギアザミウマ成虫5~7頭を供試した。1処理3反復

注2) 各薬剤2mlに浸漬後、恒温室内で飼育した(25 16L8D)

研究課題名: 畑作タマネギにおけるネギアザミウマの効率的防除技術の確立

予算区分: 1/2 国庫(消費安全対策交付金)

研究期間: 2018年~2021年

研究担当者: 川内孝太、田中義樹

発表論文: なし